

# 子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (防災キャンプ推進事業)

防災キャンプ2015in京都

京都府教育委員会

## 【事業のポイント】

- 防災に関するさまざまな体験活動の実施
- 自然災害に関する基礎的な知識の習得
- 災害発生時の適切な対応等への理解とスキルの向上
- 防災への知識・理解、意識・関心の向上
- 協力団体・関係機関と連携したプログラムの実施
- 事業の計画・運営などを通じた関係団体によるネットワークの構築



災害救助犬の活動を知ろう

## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

京都府では、平成24年8月に府南部を中心とした局地的豪雨が襲い、土砂災害や河川の氾濫により、死者2名、全壊家屋34戸等多大な被害が発生、宇治市内の全小学校で避難所が設営された。平成25年9月の台風18号では、特別警報が全国で初めて発令され、5,000戸近くの浸水被害が発生し、約35万人に避難勧告、約42万人に避難指示が出された。更に、平成26年8月豪雨では、死者2名、全壊、半壊家屋は218戸を数え、府北部を中心に建物の浸水や道路・河川の損壊等の被害が生じた。

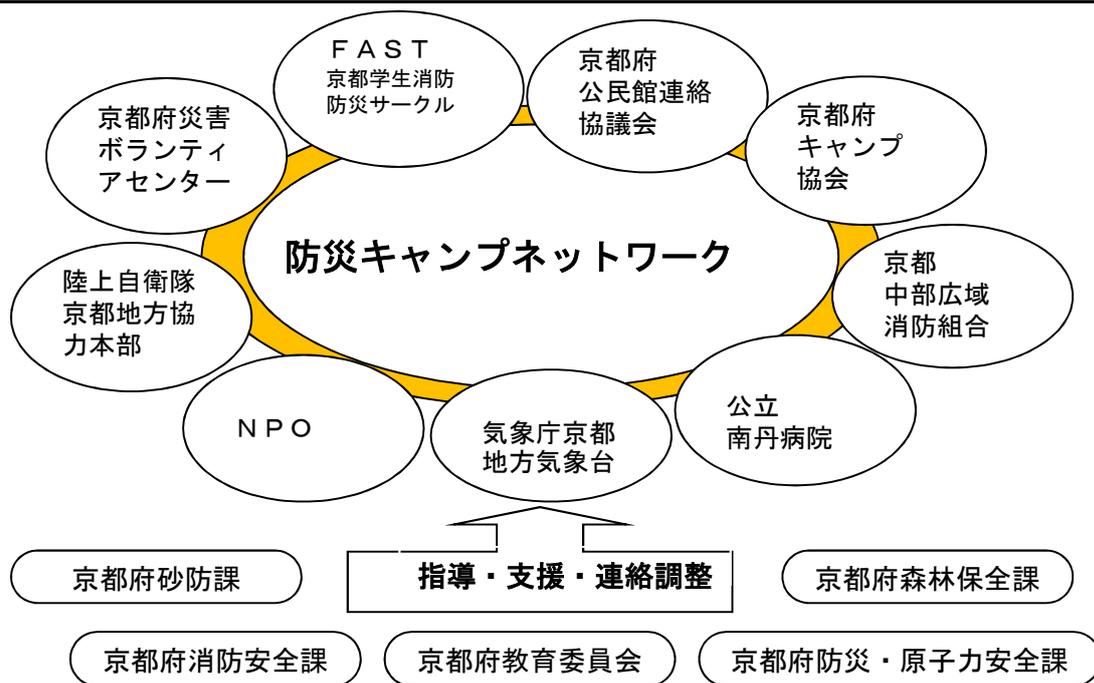
### (2) ねらい

京都府では3年連続、大雨や台風による甚大な水害に見舞われたことを鑑み、府民の防災に対する意識の更なる向上を図るとともに、子どもから大人まで、自然災害についての知識、理解、備えから具体的対応まで、防災教育プログラムを学習・体験できる「防災キャンプ2015in京都」を実施。

事業の実施にあたっては、協力団体として、新たに京都府公民館連絡協議会、FAST(京都学生消防防災サークル)、NPO等の協力を得て、相互の情報交換や情報の共有ができる場を設定し、事業の円滑な運営とネットワーク作りを進める。

## 2. 実施概要

### (1) 実施主体



(2)開催実績	
月 日	内 容
5月	○事業日程の調整及び運営体制の検討、協力者調整
6月	○「防災キャンプ2015in京都」募集チラシ作成
6月28日	○プログラム担当者と日程及び活動内容の調整 ○学生スタッフ事前研修会
7月上旬 7月27日	○「防災キャンプ2015in京都」募集チラシ配布 ○第1回ネットワーク会議 ・日程及びプログラム内容・準備物の詳細調整
8月上旬 8月下旬	○参加者の決定及び案内の発送 ○プログラム内容及び準備物の最終確認
9月上旬 9月11日	○参加者用しおり(活動ノート)等の作成 ○「防災キャンプ2015in京都」現地打ち合わせ会(京都府立るり溪少年自然の家) ・当日運営及び準備に関する打ち合わせ
9月21日～ 9月23日	○「防災キャンプ2015in京都」(京都府立るり溪少年自然の家)
12月8日 12月16日～ 12月17日	○第2回ネットワーク会議 ・「防災キャンプ2015in京都」概要報告及び評価・総括 ○防災キャンプ視察(愛媛県教育委員会・新居浜市高津公民館) ・施設見学 ・地域関係機関との連携について ・公民館を中心とした実行委員会の運営について
1月14日	○普及・啓発 ・京都学生FASTネットワーク会議 「防災キャンプ2015in京都」概要報告等
2月16日	○普及・啓発 ・京都府公民館連絡協議会評議員会 「防災キャンプ2015in京都」概要報告等

### (3)ネットワーク会議の開催

#### ○防災キャンプネットワーク会議

本事業の協力団体と2回のネットワーク会議を開催した。

各団体相互の情報共有及び意見交換を実施。具体的なプログラムが提案され活発に議論できた。



#### 【ネットワーク会議構成団体】

自衛隊京都地方協力本部・気象庁・京都地方気象台・京都府キャンプ協会・京都学生FAST(大学生消防防災サークル)・京都府災害ボランティアセンター・公立南丹病院 日本赤十字社京都府支部・(社福)南丹市社会福祉協議会・京都府公民館連絡協議会

#### (4)プログラムの充実



地元婦人会による「炊き出し」



陸上自衛隊による「足湯体験」



FAST 大学生スタッフの紹介

- 自然災害が発生し、参加者が避難所(京都府立り溪少年自然の家)に避難して来たことを想定し、「学び」・「体験」・「制作」の3本柱で学習・体験プログラムを構成した。
- 本年度から防災キャンプの運営スタッフとして、京都学生FAST(大学生消防防災サークル)の協力を得た。学生スタッフの協力によりスムーズな進行ができた。
- 事業実施後のアンケートには「いつか学生スタッフとして参加したい。」という参加者の声もあり、大学生スタッフの参加は子ども達にとってよい影響を与えた。

### 3. 成果と課題

#### (1)事業成果

- 被災者を救出・支援した体験談やHUG(避難所運営ゲーム)の評価が高かった。参加者の防災に対する意識も高く、被災者を支援する立場での体験プログラムも引き続き実施したい。
- 参加者からは、子どもと一緒にプログラムを体験できたことや、初対面の方と行動を共にし、協力しながら避難所の運営方法や応急処置、消防への通報の仕方をなど防災に関する様々な学習ができ普段の生活が幸せだと思えたり、災害に対する備えの必要性について理解を深めたりしていた。

#### (2)事業運営上の課題

- ◆青少年の体験活動の更なる充実を図るため、地域の様々な関係者の協力を得ながら、地域の教育資源を活用し、体験的な防災教育プログラムを取り入れた「防災キャンプin京都」を実施するために、地域ネットワークを構築を進める。
- ◆会場は京都府立り溪少年自然の家で実施した。位置的には南北に長い京都府の真ん中にあると考えられるが、参加者から交通の便が悪く他の会場での開催も検討してほしいという意見があった。
- ◆日程は4年間の実績に基づき2泊3日の防災キャンプを基本とするが、今後は各市町の公共施設を会場に開催することを視野に入れ、1泊2日、1日開催も検討する。

#### (3)事業成果の普及啓発の課題

- 防災教育プログラムの実践事例を紹介するリーフレット等の作成及び配布

### 4. 団体プロフィール

〒602-8570  
京都府京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町  
京都府教育庁指導部社会教育課

TEL 075-414-5886  
FAX 074-414-5888  
URL <http://www.kyoto-be.ne.jp/syakyou/>



京都府庁(旧本館) 国の重要文化財